令和元年度とよかわデジモニ第３回アンケート結果
「クラウドファンディングの周知に関するアンケート」

概要

■目的

市ではふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング（返礼品なしの特定事業への応援寄附）を行っています。

今回、「クラウドファンディングの周知に関するアンケート」を実施し、本市クラウドファンディングのさらなる充実を図るための参考とします。

■アンケート対象者

令和元年度とよかわデジモニ モニター100人

■回答期間

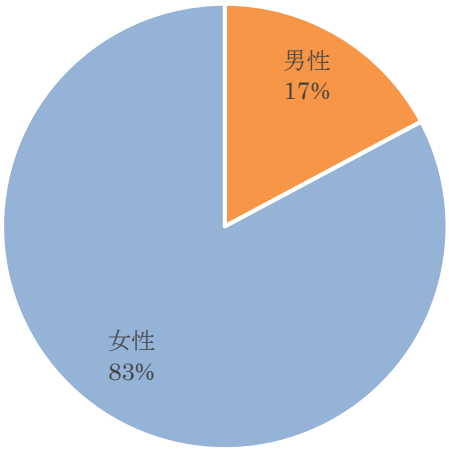
令和元年9月9日（月）から9月24日（火）まで

■回答者数（回答率）

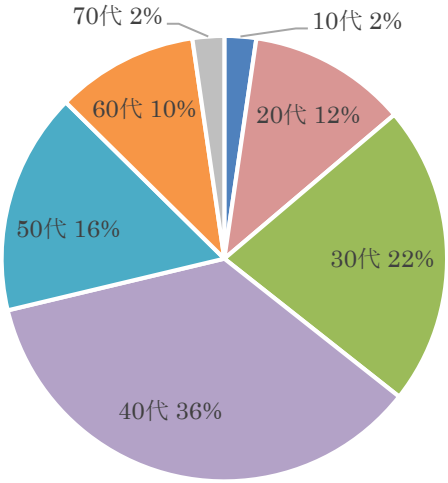
87人（87%）

■回答者の内訳

性　別	回答数	%
男性	15	17.2
女性	72	82.8
合計	87	



年　代	回答数	%
10 代	2	2.3
20 代	10	11.5
30 代	19	21.8
40 代	31	35.6
50 代	14	16.1
60 代	9	10.3
70 代	2	2.3
合計	87	



担当課の総論

「市が行うクラウドファンディングについてどう思っているか」（問１）について、「賛成」が63.2%、「反対」が1.1%と多くの方に賛成いただきましたが、一方で「どちらとも言えない」が35.6%という結果でした。

「ふるさとの情報の入手方法」（問２）については、「広報とよかわ」が74.7%と最も多い結果となりましたが、一方で、「インターネット」が51.7%、「新聞」が39.1%、「テレビ」が33.3%、「ラジオ」が8.0%とメディアから入手しているとの回答も多くありました。

「過去の豊川市クラウドファンディングへの取り組み」（問３）については、「知らない」と答えた方が62.1%という結果でした。「知っている」と答えた37.9%の方に対する「その取り組みを何で知ったか」（問４）については、「広報とよかわ」が最も多く54.5%との結果でした。また、多くのメディアにも取り上げていただいたこともあり、「新聞」33.3%、「テレビ」9.1%という結果でした。

「今後更に周知するための手段について」（問５）については、「広報とよかわ」が63.2%、「テレビ」が55.2%、「新聞」が43.7%という結果でした。また、「ＳＮＳ（市役所公式アカウント）」についても40.2%の方から回答がありました。

「市の取り組みを更に周知するためには」（問７／自由意見）については、多種多様で具体的な提案をいただきました。

「過去の豊川市クラウドファンディングへの取り組み」（問３）について、知らなかったとの回答が62.1%であったという結果を受け、いただいた意見を参考に、今後クラウドファンディングを含めた本市ふるさと納税制度のさらなる周知充実を進めていきます。

企画政策課

アンケート集計結果

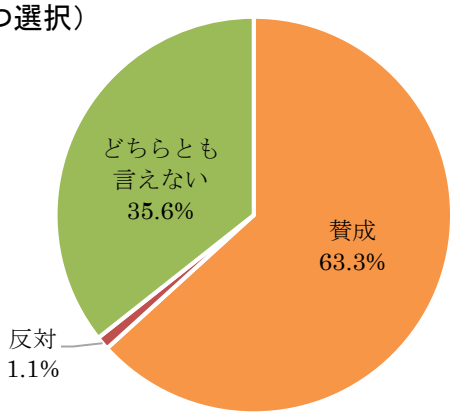
※比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第２位を四捨五入して算出しています。このため、合計が100にならない場合があります。

※その他・自由意見については、原則ご記入いただいた原文のまま記載をしていますが表記誤りなどについては訂正し、アンケート内容と関係ない意見については掲載しない場合があります。

【1】市が行っているクラウドファンディングの取り組みについて、どう思いますか

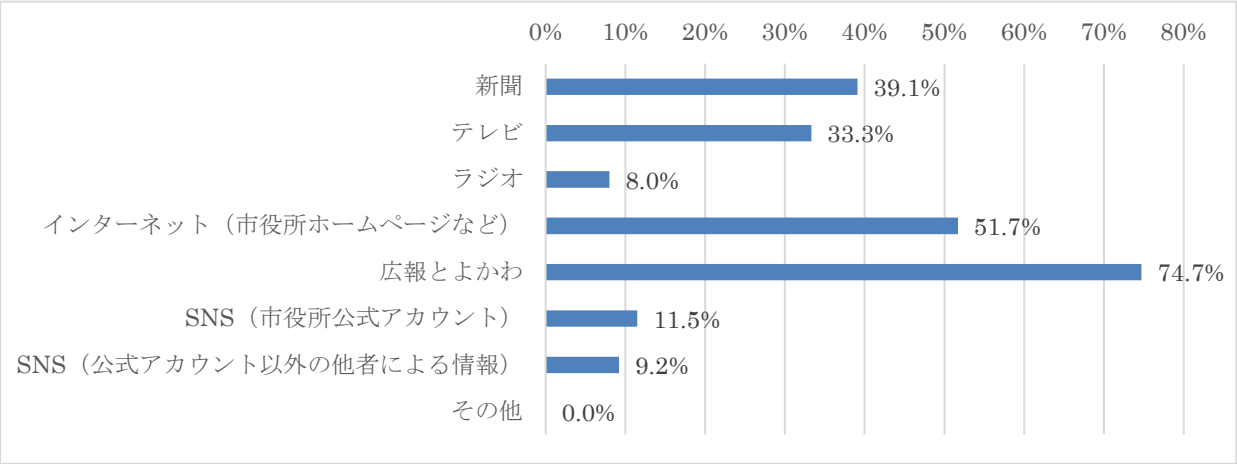
市では、ふるさと納税制度を活用しながら、市内外の個人の方から、特定の事業への寄附を募集するクラウドファンディングを行っています。（返礼品はありません）（1つ選択）

項　目	回答数	%
賛成	55	63.2
反対	1	1.1
どちらとも言えない	31	35.6
合計	87	



【2】生まれ育ったふるさとの取り組みの情報を、どのような方法で入手しますか（複数選択可）

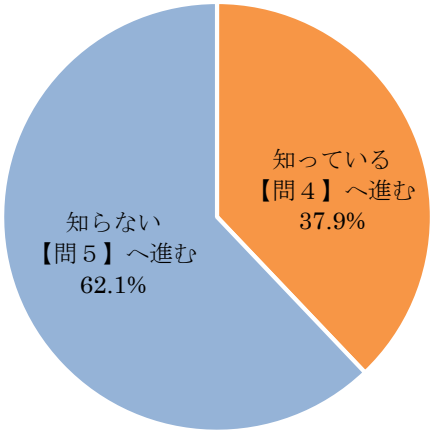
項　目	回答数	%
新聞	34	39.1
テレビ	29	33.3
ラジオ	7	8.0
インターネット（市役所ホームページなど）	45	51.7
広報とよかわ	65	74.7
SNS（市役所公式アカウント）	10	11.5
SNS（公式アカウント以外の他者による情報）	8	9.2
その他	0	0



【3】これまでに豊川市が行ったクラウドファンディングの取り組みを知っていますか

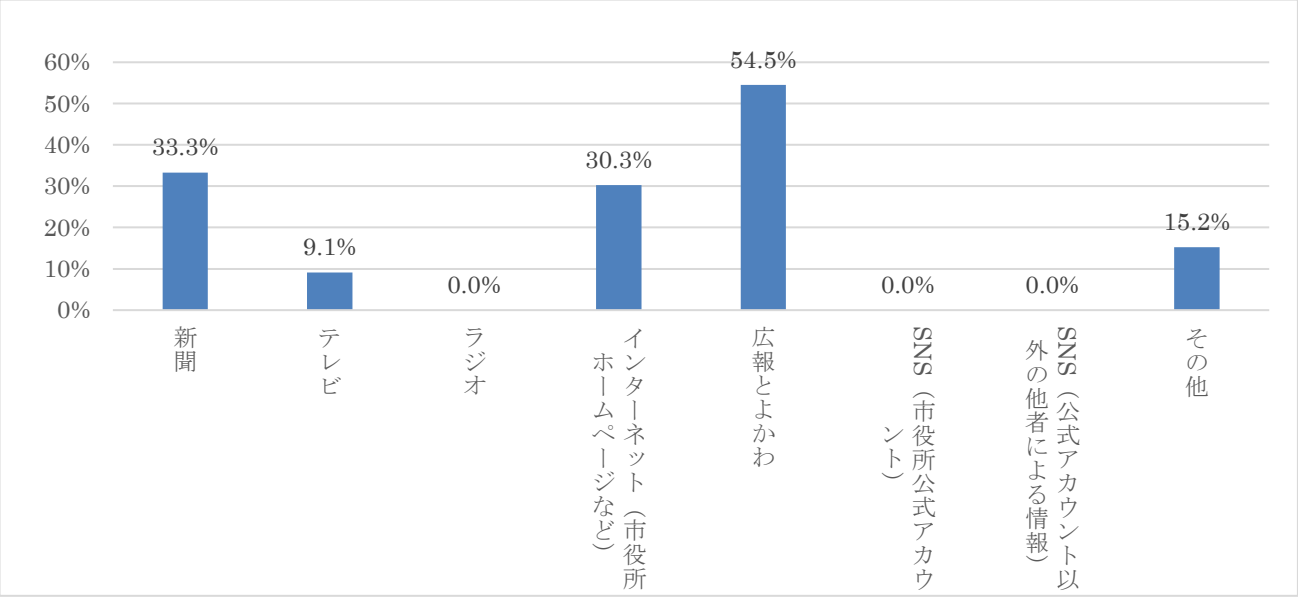
市では、平成 30 年度から、特定の事業に対してふるさと納税制度を活用して支援（寄附）をしていただく、クラウドファンディングを行っています。豊川市が行った次のプロジェクトを知っていますか（1 つ選択）

項　目	回答数	%
知っている 【問 4】へ進む	33	37.9
知らない 【問 5】へ進む	54	62.1
合計	87	



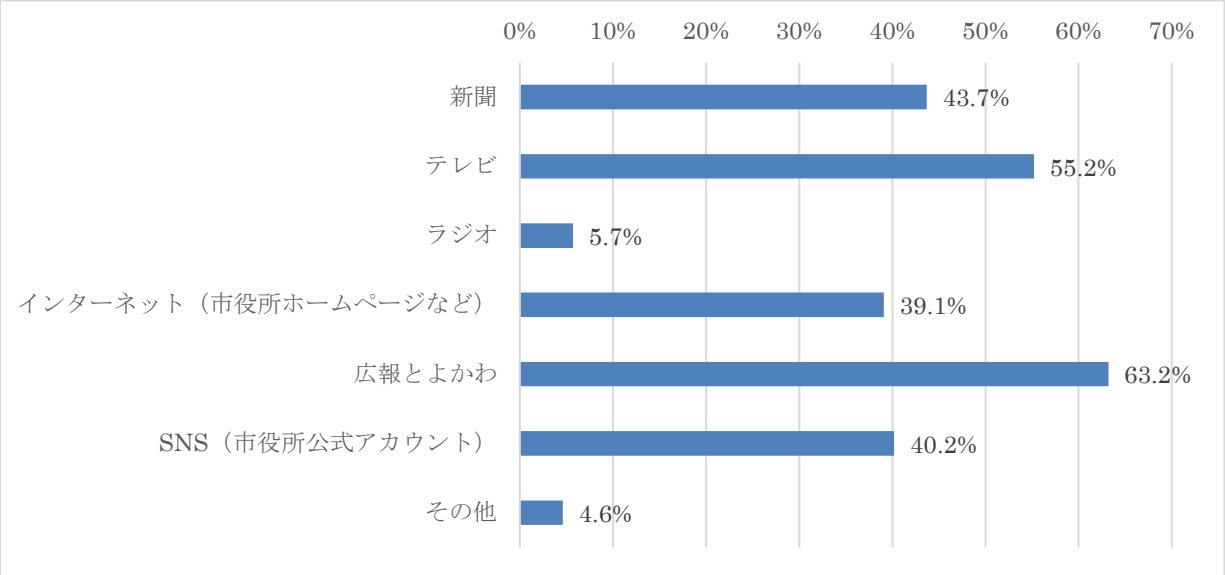
【4】その取り組みを何で知りましたか（複数選択可）（対象者 33 人）

項　目	回答数	%
新聞	11	33.3
テレビ	3	9.1
ラジオ	0	0
インターネット（市役所ホームページなど）	10	30.3
広報とよかわ	18	54.5
SNS（市役所公式アカウント）	0	0
SNS（公式アカウント以外の他者による情報）	0	0
その他 ・市役所内で見かけた ・今、知りました。クラウドファンディングで検索しました ・知人から聞いた ・ぎょぎょランド ・ふるさと納税のリーフレット	5	15.2



【5】より多くの方に市の取り組みを知ってもらうためには、どんな手段が良いと思いますか（3 つまで選択可）

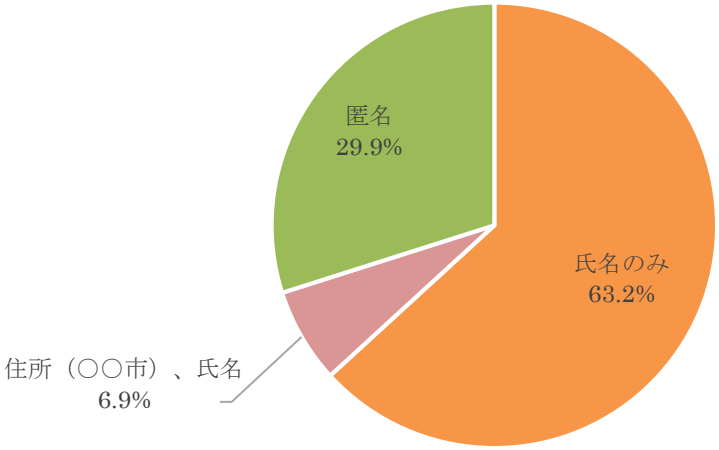
項　目	回答数	%
新聞	38	43.7
テレビ	48	55.2
ラジオ	5	5.7
インターネット（市役所ホームページなど）	34	39.1
広報とよかわ	55	63.2
SNS（市役所公式アカウント）	35	40.2
その他 ・スーパーやデパート、小中学校など、多くの地域住民が集まる場所でチラシを設置や呼びかけをする ・色々な市内のイベントでのお知らせ ・YouTube ・回覧板、学校を経由して各家庭にチラシ配り、はなまる豊川に載せてもらう	4	4.6



【6】豊川市に寄附をしていただいた場合、どのような公表の方法を望みますか

市では、寄附をしていただいた方のうち、公表を希望される方の氏名を市ホームページに掲載しており、クラウドファンディングの場合も同様に特設ページ内に氏名を公表しています。（1つ選択）

項　目	回答数	%
氏名のみ	55	63.2
住所（〇〇市）、氏名	6	6.9
匿名	26	29.9
合計	87	



【7】市の取り組みを、より多くの方に知ってもらうために取り組むべきだと思うことがあれば教えてください。

このアンケートで初めて豊川市がクラウドファンディングを行なっていた事を知りました。もっと、大々的にしている事を発表していいと思います。
例えば、市の情報を公表したとして、広報は関係のあるところしか見ない、SNS はやらないという人が数多く存在すると思います。SNS を見る年齢層以外には期待できません。公共施設にチラシを置いても、施設の利用がないと当然目にすることはない。今は町内にあった、ポスターなどを貼る掲示板のようなものも見なくなりました。では、どこに広報を行えば良いか？個人的に思うことは、駅の構内の人通りが多い所（例えば国府駅の改札を入った所は乗り換える人が多く通る）に広報用の掲示スペースを設ける。スーパー・コンビニに掲示スペースを設ける。保育園・介護施設・病院に設ける。これらは、いろんな問題があると思いますが、人が絶えず入ったり出たり流動的な場所に広くアピールしていった方が良いのではないかと思いました。
新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット、広報とよかわ、ＳＮＳで知ってもらう。
今の時代は IT 社会なので、IT を活用した情報発信が一番有効だと思う
若い人にはネットの活用も有効だが、なんだかんだ言っても周知にはテレビが一番向いていると思う。テレビとの繋がりを大切にする、または取材にいきたいと思わせるイベントや催し、施策のアイデアを全国の市町村の例を参考に行う

市内で行われるイベントでのお知らせを配ることは、インターネットや広報を見ない方に知ってもらえると思います。また、外国人の方へも広報以外でも知らせられるようにできるとよいと思います。
インスタグラム、ユーチューブなど活用するのはどうでしょう？
広報で、丁寧に解りやすく説明をすれば良いと思います
SNS、広告、広報・・発信していろいろな世代の方の目にとまるようにする。
クラウドファンディング、ふるさと納税を分かりやすく広報に掲載して欲しい。特に控除の部分。また、おいでん祭などイベントの時にクラウドファンディングの説明、登録？ブースがあると良いと思う。返礼がなくても、豊川の課題に寄与出来て控除を受けれるなら参加する人はたくさんいると思う。
広報活動。町内会の行事等への参加。今も行っておられますが、高齢者の介護予防教室。交通安全教室。等の実施。緑化活動の実績の発表。写真の掲載。透明性のある、クリーンな活動。
行政や市役所サービスなどこんなサービスがあれば良いなと投稿しやすい環境を整える。広報とよかわに取り組みについて紹介したときは反応を見るために返信できるアンケート用紙を付けたり市の HP からも返信できる環境を作る。
広報はしっかり読むので記事など色々と載せて誰もがわかるように知らせてほしいです。
マスコミを上手に使う。
ホームページの充実
市の情報は広報以外では地元紙（中日新聞、東愛知新聞、東日新聞）の web で読んでいますので、これら地元紙への情報提供がありがたいと思います。また、豊川安心メールも受信しています。これに情報を載せていただくことも有効かと思います。
イベントを開く
広報は、どの世代の人にも見てもらえる一番身近なものだから、もっと内容を幅広く、ページ数を増やすといいと思う。1 回見たら終わりではなく、何回も見たくなる紙面だったらいいなぁ。
ドラマのロケ地、童館の充実、園の充実、書館の充実
公共施設での掲示
保育園や学校経由で用紙を配布する
市内の駅に広告スペースを設ける。(通勤、通学時に多くの人の目に触れる)市内のコンビニ・スーパーに広告スペースを設ける。(若者、主婦の目に触れる)寄付に対してはなんらかのお返しがあったほうがいいように思う。例えば保育園のエアコン設置への寄付なら、園児たちのお手紙(コピー)とか…。
広報とよかわが最も広く直接手元に届く手段だと思いますが、中身をどれだけ見ていただけるかが課題だと思います。市の HP でバックナンバーが見ることができるのは大変良いです。毎回見ていただけるように、例えば読んで楽しい内容(クイズや読者プレゼント、世代に合わせた興味のある内容など)を入れてみたら良いのではと思いました。他の自治体で工夫しているものなど参考にできないでしょうか。

駅等で配布する豊川市の観光パンフレットを入れる袋にＱＲコードと共に載せるとか、中を開かずに目に触れてもらえる方法をとる。
・全国レベルのメディアへの出演 ・広報物、新聞の三河版、県内版などでの、草の根からの情報発信。ただ、広報物だけでは見ない人も多数いるはずなので、テレビ、インターネット等、より多くの情報媒体を活用すべき(関係ないかもしれないが、豊川＝豊川稲荷のイメージが周囲の地域には根付いているので、豊川市民含め、情報発信には相当の努力が必要になると考える) ・私は大学生で、岡崎北高校に通っていたが、そのとき、豊川市の存在すら知らない(冗談の可能性あり)と言った人もいるため、そういった人に対してどう伝えるかはしっかり考えるべき
CCNET、ケーブルテレビも活用されるといいかと思います。